



4回目の秋に

成田小学校・児童クラブ 統括 森 幹彦

「大活躍！手上げグループ」

成田小児童クラブは4回目の秋を迎えました。開設時に1年の子どもたちが、今は児童クラブでもう4年になっています。心も体もぐんぐん成長し、とても頼りになる存在に成長しています。

3月から新型コロナ禍で学校休業があり、児童クラブも新たな対応を求められました。施設設備の清掃・消毒、子どもたち・職員の予防習慣の確立、昼食時や室内での過ごし方、発熱時の処置、保護者への緊急連絡など。各児童クラブではこれまでの計画にコロナ予防対策を加え、より細かな事項に配慮しながら運営することになりました。特に子どもたちの予防意識や実践力を高めることは喫緊の課題でした。それに加え児童クラブでは「のびのびと遊びたい」という子どもの気持ちを尊重した活動も課題でした。富谷市では小学校の部分再開が6月から始まりました。この時から、子どもたちの児童クラブ利用が増えました。1年生から4年生まで来るようになりましたが、ひとりやグループごとに遊びが分かれた状態で、子どもたちの心に距離感があることを感じました。3月に学校が長期休業になり、4年生を中心にイベントを企画し、みんなを楽しませました。企画・立案・実践する4年生はとても頼りになりました。他の子の笑顔を思い浮かべながら考え行動できる子どもたちが、この児童クラブからたくさん育ってくれたらいいなあと活動を見ながら思いました。しかし、新年度に再開した児童クラブでは、うまく遊べない子や自己抑制ができない子などがいました。職員で話し合い、子どもたちにさらに寄り添うようにしました。固い心を、少しずつ柔らかかにほぐすようにしました。

短い夏休みに「みんなで楽しいことをやってみない？」と子どもたちに声がけをしたら、4年生を中心にたくさんの子が手を上げました。成田小・児童クラブの「手上げグループ」は、すぐに結成されました。4年間の成果なのでしょうか。ミーティングで、みんながアイデアを出し練り上げます。抜群のチ

ームワークとスピード感です。本番では、みんなを笑顔に「手上げグループ」のうれしそうな顔、職員にほめられたときの照れた表情、どれもすてきでした。チャレンジした人はたくさんのことを学んでいきます。そしてイベントへの参加者になった「おもしろがるグループ」の楽しみ方もみごとでした。

「付録・出会うまで50年」

9月末、唐招提寺障壁画展に行きました。障壁画に出会うことが私の長い間の夢だったので、まさか仙台で実現できるとは想定外でした。（でも、金堂で本物を見たい。）

この障壁画のある唐招提寺金堂は現在、大規模な改修中です。金堂は解体され、取り外した障壁画は運搬可能となり、宮城県美術館まで旅をしてきました。来年には金堂は復元されます。宮城県でこの障壁画を見ることができるのは、最初で最後です。

さて、会場入り口で深呼吸し展示会場に進みました。障壁画は想像以上に大きく、また温かな色彩に圧倒されました。「50年の夢」の実現の瞬間でした。東山魁夷氏の憧れの障壁画の実物のすぐそばに立っています。胸も脚も震えました。説明や歴史年表などから、この障壁画が仕上がるまでの物語を読みました。すると、絵画の世界がさらに広がりそして魅力的になりました。

多くの皆様が会場に来ていました。夢幻の世界に浮遊しているように感じました。心が洗われ澄んでいきました。ふと（児童クラブの子どもたちをここに連れてきたら、どうなるのかなあ？）と思いました。SOATの活動で大自然を相手にする子どもたちですから、興味を持ちそうな気はするのですが…。

